



会 議：国際海事機関（IMO）第10回汚染防止及び対応小委員会（PPR 10）
開催場所：国際海事機関（IMO：英国ロンドン）及びオンラインのハイブリッド
会議期間：2023年4月24日～4月28日
海技研からの出席者：

高橋 千織：環境・動力系環境分析研究グループ長/GHG削減PT長
小島 隆志：環境・動力系環境影響評価研究グループ 上席研究員
林原 仁志：構造・産業システム系材料強度研究グループ 主任研究員

概要：汚染防止・対応小委員会（PPR）は、

- 「推奨目標ベースのブラックカーボン排出削減対策ガイドライン」最終化のための検討作業を継続するため、通信部会（CG）を再設置し、PPR 11に報告することで合意した。
- 船体付着生物管理に関するガイドライン改正案を最終化した。
- MARPOL 条約附属書 II に基づきばら積み運送される液体として、新規に提出された物質等の評価結果に合意した。

主な貢献

高橋は、国際海運によるブラックカーボン排出の北極域への影響の低減（議題 6）の審議を担当し、議題 6 を含む大気汚染防止関連議題を審議する作業部会に参加し、審議に貢献した。

小島は、有害水生生物の移動を最小化するための船体付着の制御及び管理のための 2011 年ガイドライン（決議 MEPC.207(62)）のレビュー（議題 5）、及び IMO 環境関連条約の統一解釈（バラスト水管理条約関連 01）（議題 14）の審議を担当し、作業部会に参加し審議に貢献した。

林原は、化学物質の安全及び汚染危険性の評価並びにその結果による国際バルクケミカルコード改正の準備（議題 3）の審議を担当し、これら議題を審議する技術部会にも参加し、審議に貢献した。

主な審議結果

当所職員が担当した議題の主な審議結果は以下の通りである。他の事項及び審議結果の詳細については、他機関の報告を参照願いたい。

1 国際海運によるブラックカーボン（BC）排出の北極域への影響の低減

小委員会は、実効性のある BC 排出削減対策提案のための検討作業を継続するため、通信部会（CG）を再設置し、PPR 11 に報告することで合意した。CG には、「推奨目標ベースの BC 排出削減対策ガイドライン」の最終化に向けて、今次会合で審議された「BC 排出量データ収集のためのガイドライン」の草案、及び「推奨目標ベースの BC 排出削減対策ガイドライン」のアウトライン案をもとに検討することが付託された。また、今後の BC 排出規制の導入検討のため、関心国・機関に BC 排出規制案をさらに検討し、PPR 11 に報告するよう要請した。本件の作業完了目標年を 2025 年に延長するよう MEPC 80 に要請することに合意した。



2 有害水生生物の移動を最小化するための船体付着の制御及び管理のための 2011 年ガイドライン（決議 MEPC.207(62)）のレビュー

小委員会は、船体付着生物管理に関するガイドライン改正案(ANNEX REVISED GUIDELINES FOR THE CONTROL AND MANAGEMENT OF SHIPS' BIOFOULING TO MINIMIZE THE TRANSFER OF INVASIVE AQUATIC SPECIES)、及び関連する MEPC 決議案の最終化に合意した。また、水中洗浄システムに関するガイドラインは、別途ガイダンスとして作成することとなったが、審議時間の都合により次回 PPR 11 にて審議することとなった。

3 IMO 環境関連条約の規定の統一解釈- BWM 条約付属書 I 及び規則 B-3 の統一的な解釈

小委員会は、国際バラスト水管理証明書（BWM）の書式、BWM 条約の規則 B-3.5 及び B-3.10 の統一解釈（UI）案について、BWM 条約の規定に対する全ての統一解釈の統合について最終化することに合意した。

4 化学物質の安全及び汚染危険性の評価並びにその結果による国際バルクケミカルコード改正案の準備

小委員会は、新規に提出された物質の評価、既存の物質の再評価、及び洗浄添加剤の評価結果に合意した。また、毒性蒸気検知手段の無い毒性製品に対する貨物タンク内の安全雰囲気確立のための代替手段を導入する IBC コード改正提案についての審議及び、タンク洗浄添加剤の評価に関する回章文である MEPC.1/Circ.590 の改訂作業を行った。

5 次回会合

次回の汚染防止・対応小委員会（PPR 11）は、2024 年 2 月 19 日から 23 日まで、ロンドンの IMO 本部で開催される予定である。